

図 II-1-24 道内のバス輸送人員の推移

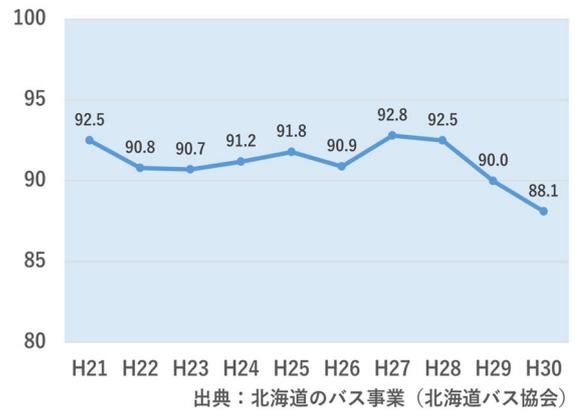


図 II-1-25 道内の乗合バス事業の経常収支比率

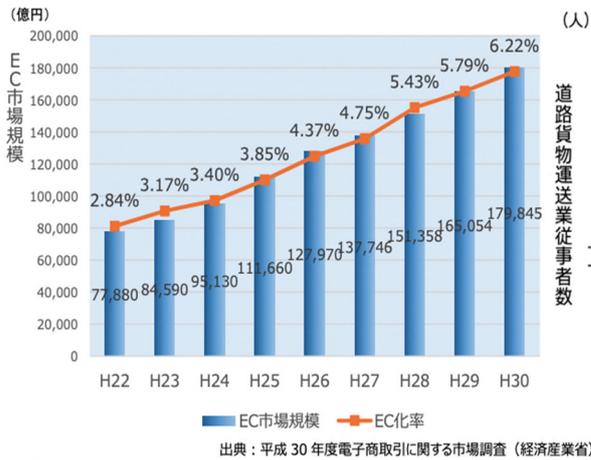


図 II-1-26 全国 EC 市場規模の拡大



図 II-1-27 道内道路貨物運送業従事者数の推移
(出典：経済センサス、事業所・企画統計調査（総務省統計局）)

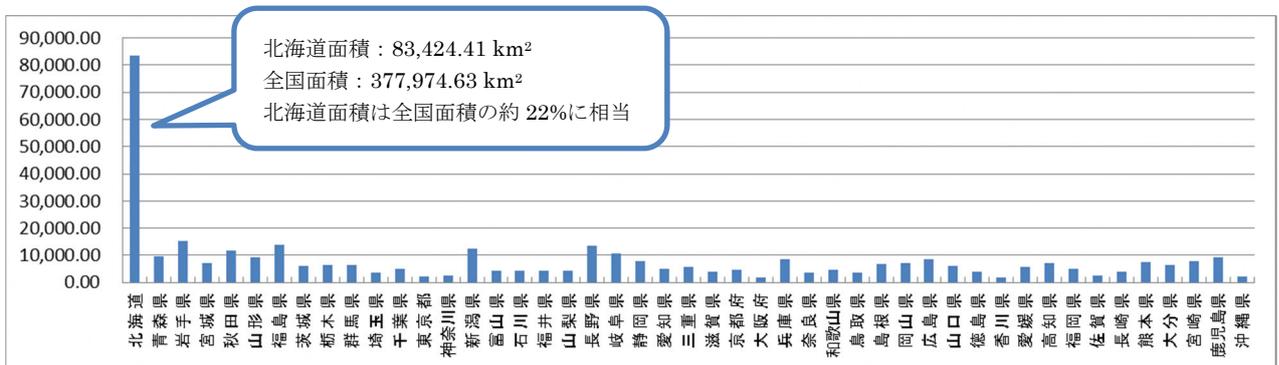
2. 北海道の優位性

(1) 地理的特性

北海道は、日本列島の最北（北緯 41 度 21 分～45 度 33 分）に位置しており、冷涼低湿な気候を有しています。面積は 83,424km² で国土の約 22% に相当し、このうち森林が 71% を占めており、全国の森林面積の 22% に相当します。[図Ⅱ-2-1]

道内の広大な平野や台地、四方を囲む海は、農林水産業の重要な生産基盤となっており、新千歳空港や室蘭港、苫小牧港などは、世界に対する日本の北の玄関、物流拠点としての役割が期待されています。

また、首都圏から遠距離にあり、大規模災害が発生した際の同時被災リスクが低いことから、首都圏などのバックアップ機能も期待されています。



出典：国土地理院「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」より作成

図Ⅱ-2-1 都道府県別面積

(2) 優れた自然環境と固有の文化

本道は知床世界自然遺産や 23 の自然公園を有するなど、豊かな自然に恵まれています。こうした自然環境により、生物の多様性が保たれているとともに、清浄な空気、水、土壌が生み出されています。また、四方を太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、大雪山系などの雄大かつ変化に富む山岳、釧路湿原といった日本を代表する広大な湿原、美しい景観の湖沼、そして冷涼な気候など、四季を通じて変化に富んだ自然環境を有しています。

2019(令和元)年 5 月に、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」が施行され、2021(令和 3)年 7 月には、北海道・北東北 3 県の縄文遺産群が、北海道初となる世界文化遺産に登録されました。個性豊かな土偶や漆工芸を生み出した縄文文化、長い歴史の中で独自の伝統や文化を培ってきたアイヌ文化など、本道の自然環境で育まれた貴重な文化や歴史を次代に伝えていくとともに、広く世界に発信し、多くの人々の理解を深めていくことが重要です。

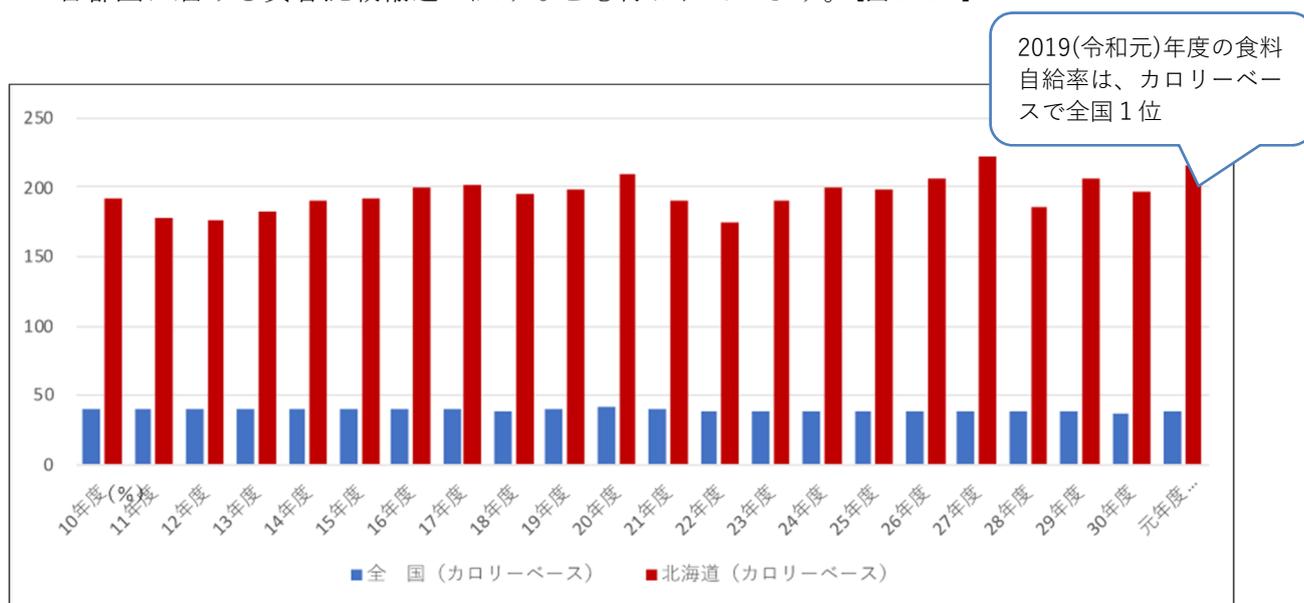
また、2023 年に ATWS^{*} (アドベンチャートラベル・ワールドサミット) が本道で開催される予定であり、本道の優れた自然環境や固有の文化を通じて北海道の観光地としての魅力を世界に発信する絶好の機会として、地域経済の活性化につなげていくことが期待されています。

(3) 高い食料自給率

広大な農地や豊富な水産資源を有する本道では、食料自給率が約 200%と高い水準で推移しているほか、農業生産額、海面漁業・養殖業の漁獲量・漁獲高が全国 1 位であるなど、国内の食料の安定供給に大きく貢献しています。[図Ⅱ-2-2、3]

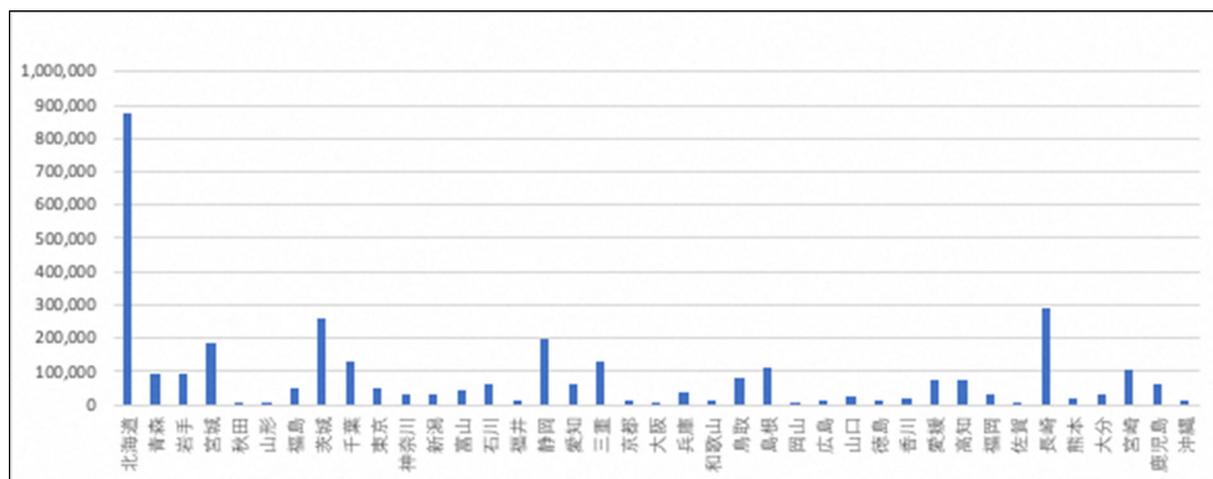
また、四季折々の自然の恵みを背景に、海や大地の新鮮で豊富な素材を生かした安全でおいしい魅力ある食の宝庫としても、国内外から注目されています。

道内で生産された農林水産物は、道路ネットワークを経て鉄道、航路、空路により全国、海外に輸送されており、近年では、新幹線を活用し朝どれの新鮮な水産物を即日首都圏に届ける貨客混載輸送の試みなども行われています。[図Ⅱ-2-4]



出典：農林水産省「令和元年度都道府県別食料自給率について」より作成

図Ⅱ-2-2 食料自給率の推移 (北海道、全国)



出典：農林水産省「海面漁業生産統計調査 (平成30年度漁業・養殖業生産統計)」

図Ⅱ-2-3 海面漁業・養殖業漁獲量 (都道府県別/平成30年度概算値)